

# 写真展「武蔵野」における写真俳句

## 選句発表

平成二十三年一月二十九日～二月四日

会場：ギャラリー緑隣館（上尾市）

主催：さいたま文学館（桶川市）

選者：松本 旭氏（「橘」主宰、埼玉大学名誉教授）

※句の頭に付けた番号は写真番号です。

### 《文学館長賞》 賞品：お米券（5千円券）

02 里山や櫓はこび出す兄いもと 桶川市 佐藤 古城

句評—人里近くにあつて、その土地にしっかりと結びついている森。冬用意のため、兄と妹とがその櫓を運び出しているのだ。平安な明るい一情景がしっかりと描かれた。

03 子等のせて根っこも足らふ冬日和 上尾市 須賀 一淑

句評—大きな、あらわな大きな根っこ。その上に子供らが乗つて楽しんでいる情景。暖かな冬の日ざしの中、はね上がる子供たちの声もはずみそう。「根っこも足らふ」に、その木の根の大きさがしっかりと示された。

15 野の仏大樹に抱かれ草萌ゆる 上尾市 村山富美子

句評—大樹に抱かれるようにして立つ野仏。春のゆらめきが「草萌ゆる」の結句でしっかりと示された。「抱かれ」の語も効果的。

### 《紅花賞》 賞品：紅花うどん他詰合せ

01 黄落を踏みつつ子らは粗朶拾ふ 上尾市 小川 康一

10 武蔵野は我が産土や冬夕焼 新宿区 小高 正子

15 大楠の根元の地蔵風涼し 上尾市 田中久美子

15 緑陰の樹下に憩ひし地蔵かな 富士見市 小峰 光子

29 幾星霜茅葺の屋根葺替へり 上尾市 須賀 遊子

### 《ホトトギス賞》 賞品：句帖

03 木枯しに子供遊ぶや武蔵野に 桶川市 柴崎 久

16 廃線の先が光りて木下闇 上尾市 水島 昌恵

17 一点の落陽映えし植田かな 上尾市 原 智子  
25 むさし野のうどんを啜る柿日和 不明 無名子  
41 短日や確かな未来節分草 加須市 鯉沼 幸子

《武蔵野賞》 賞品：文学館クリアファイル5枚セット

14 老桜は風を撰びて日を選び 不明 無名子  
23 まぼろしのアカツメクサと会へる朝 鴻巣市 篠崎 正江  
30 山道の果てに広がる霧氷かな 新宿区 大野 芳子  
40 菜の花や野にあるものの輪舞曲 渋谷区 倉田 有希  
46 老いてなほ力秘めたる里の梅 練馬区 古谷 力